

和文電報トレーナー(Japanese Telegram Trainer)からめるソフトウェア

RX START RX STOP RESET 電報読込 AUTO 欧文 和文 受信 送信 音色 古い受信機風

速度 15 WPM 周波数 800 Hz

①受信・送信モード

②RX_STARTボタン

①受信モードか送信モード選択して、
②RX_STARTボタンを押すとモールス受信かモールス送信練習を開始します。

③受信モード基本動作説明 紙
受信モードは左のお手本和文電報用紙に表示された内容がモールス音声とともに右側の和文電報用紙に表示されます。各自ノートや和文電報用紙にこのアプリで聞き取ったモールスの符号内容を書き留めてください。終了したら内容が正しいか、この画面を見て確かめてください。

④送信モード基本動作説明
送信モードは、左のお手本和文電報に表示されたおりに電鍵またはパソコンのJキーとKキーでモールス符号を入力してください。Jキーはモールスの短点、Kキーはモールスの長点を打つことができます。判定した符号が正しいと黒い文字で、間違っていると赤い文字で右側電報用紙に表示されます。

1/5 1通目 1/2ページ 全体 1/5 正答率 0% 不正解率 0% 誤答 0

和文電報トレーナー(Japanese Telegram Trainer)からめるソフトウェア

RX START RX STOP RESET 電報読込 AUTO 欧文 和文 受信 送信 音色 デフォルト(現在の音)

速度 15 WPM 周波数 800 Hz

②RX_STARTボタン
このボタンで①受信モードの時は、モールス受信が、③送信モードの時はモールス送信が可能になります。となりのRX_STOPボタンで受信・送信を停止します。RESETボタンで内容をリセットクリアします

⑩シリアルCOMポート選択コンボボックス

①受信モードでモールス音声受信練習
②RX_STARTボタンで右側の和文受信用紙欄にモールス音とともにモールスの模擬受信内容が表示されます

④速度スライダーバー
モールスの受信・送信の速度を変えることができます。単位はWPM(Word Per Minute)

⑤周波数スライダーバー
モールス音声の周波数を変えることができます。単位は(ヘルツ) Hz

③送信モードでモールス送信練習
②RX_STARTボタンで接続した電鍵がパソコンキーボードのJキーとKキーでモールスを打鍵して和文受信用紙欄にモールス音とともにモールスの模擬送信判定内容が表示されます(正しい場合は黒文字で、間違っている場合は赤文字で表示されます)

⑥モールス音色選択コンボボックス
各種モールス音の音色を選択することができます。

⑦電報読み込みボタン
自分で作成したまたは、すでに用意してある和文電報テキストを読み込むボタンです。自己作成する場合は、すでに用意してある和文電報テキストの様式に従って作成してください。

⑧前ページ、次ページボタン
前ページボタンで左側お手本、右側入力済みと文受信用紙の内容を1ページ前へ改ページ表示します。次ページボタンで1ページ次へ改ページ表示します。

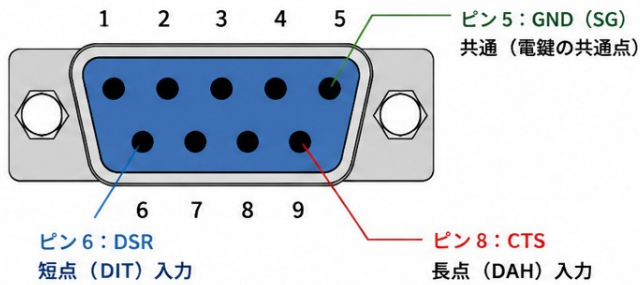
⑪リアルタイムでモールス送信の結果を表示します。終了すると外部テキストに結果を保存します。

1/5 1通目 1/2ページ 全体 1/5 正答率 0% 不正解率 0% 誤答 0

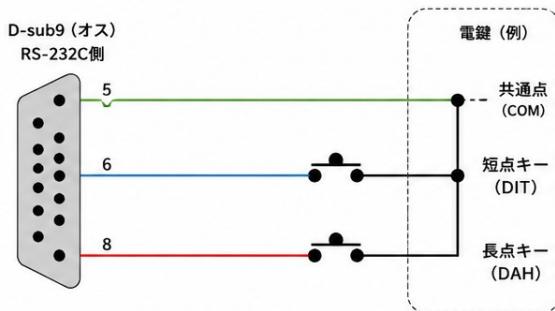
PL-2303 (PL-2023 など) シリアル変換ケーブルに RS-232C コネクタで電鍵を接続する方法

DSR=短点 (DIT)、CTS=長点 (DAH)、共通=GND (SG)

■ D-sub9ピン (オス) コネクタ (正面から見た図)



■ 電鍵との接続例 (DSR=短点、CTS=長点方式)



※ 電鍵は、接点が閉じると各信号線を GND (ピン 5) に接続する構成です。

■ D-sub9ピンの主な信号 (EIA/TIA-574準拠)

ピン番号	信号名	内容	用途 (本接続での役割)
1	DCD	Data Carrier Detect	未使用
2	RXD	Receive Data	未使用
3	TXD	Transmit Data	未使用
4	DTR	Data Terminal Ready	未使用
5	GND (SG)	Signal Ground	共通点 (電鍵の共通)
6	DSR	Data Set Ready	短点 (DIT) 入力
7	RTS	Request To Send	未使用
8	CTS	Clear To Send	長点 (DAH) 入力
9	RI	Ring Indicator	未使用

■ 接続解説

1. PL-2303 (PL-2023 など) をパソコンのUSBポートに接続し、ドライバをインストールします。
2. RS-232C側のD-sub9ピン (オス) コネクタを使用します。
3. ピン 5 (GND : SG) を電鍵の共通点 (COM) に接続します。
4. ピン 6 (DSR) を電鍵の短点キー (DIT) に接続します。
5. ピン 8 (CTS) を電鍵の長点キー (DAH) に接続します。
6. 各キーを押すと、それぞれの信号線がGNDに短絡され、パソコン側では DSR = 短点、CTS = 長点 として認識されます。

ポイント

- この方式は、多くのモルス通信ソフト (例: CTESTWIN、Morse Runner、MMTTYなど) で設定可能です。
- ソフト側の設定で「DSR=DIT」「CTS=DAH」に指定してください。
- 電鍵の極性 (接点の向き) は、上図のように「信号線をGNDに落とす」構成が一般的です。

4 練習のコツ

① まず低速から

はじめは速度を低めにして、文字を確実に聞き取る練習をします。慣れたら少しずつ速度を上げます。

② 1文字ずつ確認

右側の用紙に表示された文字と左側のお手本を見比べ、間違えた文字をメモします。

③ 短点・長点の区別

短点は短く、長点は短点3個分の長さです。J=短点、K=長点を意識します。

④ 終了後に復習

正答率・不正解率・誤答数を確認し、苦手な文字を重点的に練習します。

ポイント：既存機能はそのまま、操作前にこのページで確認できます。

5 設定項目

速度 WPM

モールスの受信・送信速度を変更します。低速は練習向き、高速は実力確認向きです。

周波数 Hz

モールス音の高さを変更します。聞きやすい高さに合わせてください。

音色

デフォルト、無線機風、明瞭CW、柔らかい音、古い信機風、ブザー風を選べます。

欧文／和文

使うモールス符号表を切り替えます。和文電報練習では和文を選択します。

ポイント：既存機能はそのまま、操作前にこのページで確認できます。

6 読み込み・ページ操作

電報読込

自分で作成した和文電報テキストを読み込みます。VALA～TEXT形式に合わせてください。

前ページ／次ページ

お手本用紙とユーザー入力用紙をページ単位で切り替えます。

RESET

練習結果と表示内容をリセットします。やり直す時に使います。

表示確認

ページ数、通数、正答率、不正解率、誤答数を下部で確認できます。

ポイント：既存機能はそのまま、操作前にこのページで確認できます。

7 AUTO機能

AUTOとは

横振り電鍵で短点・長点を自動的に連続発生させる練習補助機能です。

使う場面

送信モードで外部電鍵を使うときに便利です。
通常の練習ではオフでも使えます。

短点側

DSRまたはJキー側を押すと短点入力として扱います。

長点側

CTSまたはKキー側を押すと長点入力として扱います。

ポイント：既存機能はそのまま、操作前にこのページで確認できます。

8 トラブル対処

音が出ない

RX START後、音量・音色・周波数を確認します。
PCの再生デバイスも確認してください。

COMが反応しない

COMポート選択、USBシリアル変換器、配線の5番GND・6番DSR・8番CTSを確認します。

文字が違う

欧文／和文の選択、J-短点、K-長点、電鍵配線を確認します。

画面が見切れる

取扱説明書は画面サイズとDPIに合わせて自動調整されます。

ポイント：既存機能はそのまま、操作前にこのページで確認できます。

9 ショートカット・符号

キーボード入力

Jキー＝短点、Kキー＝長点として使えます。
送信モードで練習します。

短点・長点

短点は「・」、長点は「ー」です。
長点は短点3個分の長さです。

代表的な制御符号

BT＝本文開始、VE＝本文終了など、
練習中の区切りとして扱います。

復習方法

間違えた文字をメモし、同じ文字を
繰り返し練習すると上達しやすくなります。

ポイント：既存機能はそのまま、操作前にこのページで確認できます。